



## 2021年12月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2021年5月14日

上場会社名 株式会社ビーグリー 上場取引所 東  
 コード番号 3981 URL https://www.beagle.com  
 代表者(役職名) 代表取締役社長 (氏名) 吉田 仁平  
 問合せ先責任者(役職名) 取締役管理部担当役員兼広報IR室長 (氏名) 櫻井 祐一 (TEL) 03-6706-4000  
 四半期報告書提出予定日 2021年5月14日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

## 1. 2021年12月期第1四半期の連結業績(2021年1月1日~2021年3月31日)

## (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年12月期第1四半期	4,422	—	463	—	426	—	224	—
2020年12月期第1四半期	—	—	—	—	—	—	—	—

(注) 包括利益 2021年12月期第1四半期 224百万円(—%) 2020年12月期第1四半期 一百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年12月期第1四半期	37.88	37.35
2020年12月期第1四半期	—	—

(注) 当社は2020年12月期連結会計年度末より連結財務諸表を作成しているため、2020年12月期第1四半期の数値及び対前年同四半期増減率は記載しておりません。

## (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2021年12月期第1四半期	19,495	5,452	28.0
2020年12月期	19,741	5,224	26.5

(参考) 自己資本 2021年12月期第1四半期 5,452百万円 2020年12月期 5,224百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年12月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2021年12月期	—	—	—	—	—
2021年12月期(予想)	—	—	—	—	—

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

(注) 当社は定款において第2四半期末日及び期末日を配当基準日と定めておりますが、現時点では当該基準日における配当予想額は未定であります。

## 3. 2021年12月期の連結業績予想(2021年1月1日~2021年12月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	9,374	—	660	—	586	—	241	—	40.78
通期	19,682	—	1,350	—	1,210	—	524	—	84.87

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

(注) 当社は2020年12月期連結会計年度末より連結財務諸表を作成しているため、対前期及び対前年同四半期増減率は記載しておりません。

(注) 業績予想につきましては、本日付適時開示資料「2021年12月期第2四半期業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照下さい。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無  
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 一社(社名) 、除外 一社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注) 詳細は、添付資料P8「(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

2021年12月期1Q	6,182,180株	2020年12月期	6,175,661株
2021年12月期1Q	246,728株	2020年12月期	246,723株
2021年12月期1Q	5,930,388株	2020年12月期1Q	5,902,004株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P3「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(セグメント情報等)	8
(企業結合等関係)	9
(追加情報)	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間における日本経済は、政府の各種経済対策による効果を背景にして、景気は一部緩やかに持ち直していたものの、1月から3月にかけて新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の再拡大による2度目の緊急事態宣言の発令により経済活動の制限がなされる等、先行きは依然として不透明な状況にあります。

そのような状況下、コミックを中心とする電子書籍市場は、ユーザーの拡大及びユーザー平均購入量の増加が続いており、今後も電子書籍及び電子コミック市場の拡大が続くことが予想されております。また、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響で巣ごもり消費も促されており、更なるユーザーの増加、定着に寄与することが想定されております。（出典：インプレス総合研究所「電子書籍ビジネス調査報告書2020」）

しかしながら、電子書籍のビジネスモデルの多様化や成熟によって電子書籍市場が徐々に飽和していくことも予想されます。

また、海賊版漫画サイトによる被害も拡大しており、当社グループにおきましては、今後も注意深く情報収集を継続するとともに、関連業界団体と連携のうえ、しかるべき対応を取ってまいります。

このような市場環境の中で、当社グループは「まんが王国」のブランド構築や規模拡大に注力するとともに連載作品の創出や先行配信タイトル等による品揃え及び編集機能の強化を進め、コンテンツ育成に努めました。また、2020年10月に株式を取得したぶんか社グループとのシナジーを生み出すべく連携を深めております。

なお、当社グループでは昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）拡大の情勢に鑑み、お取引先の皆様、従業員並びに関係者の皆様の安全確保と感染予防・拡大防止に向けた対応を進めるとともに、事業成長との両立に努めております。

この結果、当第1四半期の連結売上高は44億円となり、「まんが王国」は過去最高売上高を記録いたしました。

以下、当第1四半期連結累計期間における当社グループのプラットフォームセグメント及びコンテンツセグメントの主な活動状況であります。

プラットフォームセグメントの主力サービスであるコミック配信サービス「まんが王国」においては、ユーザーの訪問・定着・課金の流れを促し、課金者数と顧客単価を上げるべく、お得感を訴求するキャンペーンやブランディング活動に注力しました。「まんが王国」サイト内で展開しているポイント購入と消費の両方であわせて毎日最大50%還元されるポイントプログラムの常時実施だけでなく、お得感の訴求や幅広いユーザー層獲得のための販売促進活動を積極的に行いました。2020年10月から11月に実施された第三者調査機関による電子コミックサービスに関する調査におきましても、「お得感No.1」（最もお得に感じるサービス第1位）を獲得しております。また、2021年1月1日に放送を開始したTVCMでは、正月三が日におけるTwitter上での電子書籍各社のTVCMへの反応においてトップシェア（1位）を獲得する等、ユーザーの興味・関心を促進し、サイトへの流入を促す幅広い広告宣伝活動を積極的に実施しております。

更に同年2月には、日本テレビ放送網株式会社の番組である漫画家発掘ドキュメントバラエティー「THE TOKIWA」では、共同で行われたオーディションの様子が4週連続放送されました。漫画界の未来を担う、次世代のスター漫画家を発掘する本企画は、オーディションを勝ち抜いた合格者が原作者とともに漫画を制作し、「まんが王国」での配信を目指すものです。このように「まんが王国」では、単なるコンテンツ拡充だけでなく作家デビュー支援やコンテンツの差別化を推進しております。これらの取り組みにより、2021年1月に会員登録数が450万人を突破する等、継続的に成長しております。

小説投稿サービス「ノベルバ」においては、投稿作家から商業作家へのデビューを実現するプログラムを設け、サービスの差別化と作家デビュー支援を推進しております。また、株式会社T0ボックスや株式会社マッグガーデン作品の配信を開始する等、商業作品の許諾獲得にも注力し、サイトの活性化に努めております。

IPプロデュースにおいては、2021年1月より放送された大人気アニメ「無職転生～異世界行ったら本気だす～」初のスマートフォンゲーム「無職転生～ゲームになっても本気だす～」を2021年3月に配信開始する等、「まんが王国」とのシナジーを見据えたプロジェクトへの投資を行っております。

コンテンツセグメントにおいては、電子コミックを中心に漫画コンテンツのヒットやファッション雑誌の好調を受け、計画を大きく上回るペースで進捗いたしました。また、新人作家の発掘のためスマートフォン向けコミックサイト「マンガよもんが」にて「マンガよもんが新人賞」を実施したほか、新ジャンル開拓のための組織体制の強化や下準備を行う等、作品創出力の増強にも取り組んでおります。

この結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は4,422,622千円、営業利益は463,611千円、経常利益は426,645千円、親会社株主に帰属する四半期純利益は224,639千円となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

(プラットフォームセグメント)

当セグメントの売上高は2,848,912千円、営業利益は69,976千円となりました。

(コンテンツセグメント)

当セグメントの売上高は1,619,185千円、営業利益は394,472千円となりました。

当社グループは、前連結会計年度末より連結財務諸表を作成しているため、前年同四半期との比較・分析の記載はしていません。

## (2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第1四半期連結会計期間末における資産合計は19,495,037千円となり、前連結会計年度末に比べ246,073千円減少しました。

流動資産は7,633,602千円となり、前連結会計年度末と比べ219,670千円減少しました。これは主に、現金及び預金が125,032千円増加した一方で、受取手形及び売掛金が365,818千円減少したことによるものです。

固定資産は11,861,435千円となり、前連結会計年度末と比べ26,403千円減少しました。これは主に、無形固定資産が26,547千円減少したことによるものです。

(負債)

当第1四半期連結会計期間末における負債合計は14,042,436千円となり、前連結会計年度末に比べ473,962千円減少しました。

流動負債は7,975,774千円となり、前連結会計年度末に比べ257,202千円減少しました。これは主に、買掛金が86,693千円増加した一方で、未払法人税等が247,499千円、返金負債が142,552千円減少したことによるものです。

固定負債は6,066,662千円となり、前連結会計年度末と比べ216,760千円減少しました。これは主に、長期借入金が235,000千円減少したことによるものです。

(純資産)

当第1四半期連結会計期間末における純資産合計は5,452,600千円となり、前連結会計年度末に比べ227,889千円増加しました。これは主に、利益剰余金が224,639千円増加したことによるものです。

この結果、自己資本比率は、28.0%となりました。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

業績予想につきましては、当第1四半期連結累計期間の業績を考慮し、上期の業績予想を修正いたしました。

詳細につきましては、本日(2021年5月14日)に公表いたしました「2021年12月期第2四半期業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2021年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	3,230,336	3,355,369
受取手形及び売掛金	4,433,602	4,067,784
商品及び製品	76,524	60,797
貯蔵品	1,265	1,194
前渡金	10,438	10,432
前払費用	36,506	53,634
未収入金	51,805	45,303
その他	42,314	64,868
貸倒引当金	△29,522	△25,782
流動資産合計	7,853,272	7,633,602
固定資産		
有形固定資産		
建物	14,662	14,662
建物附属設備	48,838	48,838
工具、器具及び備品	185,683	190,814
減価償却累計額	△188,816	△193,183
減損損失累計額	△9,426	△9,426
有形固定資産合計	50,941	51,705
無形固定資産		
のれん	10,882,880	10,715,438
ソフトウェア	262,490	256,220
コンテンツ資産	296,127	579,462
ソフトウェア仮勘定	3,742	—
コンテンツ資産仮勘定	164,586	32,172
その他	1,382	1,370
無形固定資産合計	11,611,210	11,584,663
投資その他の資産		
敷金及び保証金	148,955	148,702
繰延税金資産	58,170	58,170
その他	18,560	18,194
投資その他の資産合計	225,686	225,066
固定資産合計	11,887,838	11,861,435
資産合計	19,741,111	19,495,037

(単位:千円)

	前連結会計年度 (2020年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2021年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,943,123	3,029,817
短期借入金	2,000,000	2,000,000
1年内返済予定の長期借入金	940,000	940,000
未払金	347,247	360,078
未払費用	163,321	180,673
未払法人税等	442,286	194,787
未払消費税等	104,818	72,120
繰延収益	631,739	670,433
返金負債	596,896	454,344
預り金	28,240	55,621
その他	35,300	17,897
流動負債合計	8,232,976	7,975,774
固定負債		
長期借入金	6,245,000	6,010,000
繰延税金負債	38,423	56,662
固定負債合計	6,283,423	6,066,662
負債合計	14,516,399	14,042,436
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,875,831	1,877,461
資本剰余金	1,875,331	1,876,961
利益剰余金	1,841,717	2,066,356
自己株式	△368,169	△368,178
株主資本合計	5,224,711	5,452,600
純資産合計	5,224,711	5,452,600
負債純資産合計	19,741,111	19,495,037

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	当第1四半期連結累計期間 (自 2021年1月1日 至 2021年3月31日)
売上高	4,422,622
売上原価	2,765,487
売上総利益	1,657,134
販売費及び一般管理費	1,193,522
営業利益	463,611
営業外収益	
受取利息	14
受取返戻金	836
助成金収入	150
その他	296
営業外収益合計	1,296
営業外費用	
支払利息	35,855
融資手数料	2,405
その他	2
営業外費用合計	38,262
経常利益	426,645
税金等調整前四半期純利益	426,645
法人税、住民税及び事業税	183,766
法人税等調整額	18,239
法人税等合計	202,006
四半期純利益	224,639
親会社株主に帰属する四半期純利益	224,639



## 四半期連結包括利益計算書

## 第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	当第1四半期連結累計期間 (自2021年1月1日 至2021年3月31日)
四半期純利益	224,639
四半期包括利益	224,639
(内訳)	
親会社株主に係る四半期包括利益	224,639

## (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前題に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

## 税金費用の計算

税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用する方法によっております。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

当第1四半期連結累計期間(自 2021年1月1日 至 2021年3月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	合計 (注) 2
	プラットフォーム セグメント	コンテンツ セグメント	計		
売上高					
外部顧客への売上高	2,848,912	1,573,710	4,422,622	—	4,422,622
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	45,475	45,475	△45,475	—
計	2,848,912	1,619,185	4,468,098	△45,475	4,422,622
セグメント利益	69,976	394,472	464,448	△836	463,611

(注) 1. セグメント利益の調整額△836千円は、全社費用及びセグメント間取引相殺消去額であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

(企業結合等関係)

共通支配下の取引等

連結子会社間の合併

当社は、2020年10月30日開催の取締役会において、当社連結子会社である株式会社ぶんか社ホールディングス及び株式会社ぶんか社グループの合併及び存続会社である株式会社ぶんか社ホールディングスの商号を変更することを決議し、2021年1月1日に実行いたしました。

1. 取引の概要

(1) 結合当事企業の名称及び事業の内容

①結合企業

名称 株式会社ぶんか社ホールディングス  
事業の内容 出版

②被結合企業

名称 株式会社ぶんか社グループ  
事業の内容 持株会社

(2) 企業結合日

2021年1月1日

(3) 企業結合の法的形式

株式会社ぶんか社ホールディングスを存続会社とし、株式会社ぶんか社グループを消滅会社とする吸収合併

(4) 結合後企業の名称

株式会社ぶんか社グループ

(注) 株式会社ぶんか社ホールディングスは2021年1月1日付で上記商号に変更いたしました。

(5) その他取引の概要に関する事項

当社グループの経営の一環として、グループ管理の効率化を図ること、関係会社の統括会社であることを明確にするために合併及び商号変更をいたしました。

2. 実施した会計処理の概要

「企業結合に関する会計基準」及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」に基づき、共通支配下の取引として処理しております。

(追加情報)

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)拡大に伴う会計上の見積り

前連結会計年度の有価証券報告書の(追加情報)に記載した新型コロナウイルス感染症の影響に関する仮定について重要な変更はありません。